

町西部を通る朱雀大路

都城・藤原京の朱雀大路が町西部を東西に通る当地は、古代の皇居・藤原宮に隣接する歴史上で貴重な一角を占めていました。

元文四（一七三九）年の「地方蔵方寺尾勤録」という古文書に、いまでも同町に北接しである当時の高殿村（現高殿町）から、枝分かれして当地ができたとあります。このときに初めて「別所」の地名が生まれたのか、それまでに高殿村の字別所があったのかは、これより古い記録が見当たらず分かりません。

江戸時代に「別所村」と呼ばれた当地は、高取藩領として過ごし明治時代を迎えます。明治一五年ごろには戸数二四戸・人口一三二人の静かな農村（町村誌集）でした。同一七ごろ村では主に米・麦・ブドウ・実綿・菜種を作っていました（農産物取調表）。

明治二二年の町村制施行により鴨公村の大字となり、昭和三年の檀原市発足で同市大字となったあと、同年一〇月に「檀原市別所町」となりました。かつて「観音堂」といわれた現在の観音寺が、古い町並みに包まれたなかにあります。むかし高殿村・興福寺から移した（古跡略考）という「十一面観音」が祭られ、いまでも周辺住民の厚い信仰を集めています。

べっ
別

町
所

ちよう